

# 救急車を上手に使いましょう

～救急車 必要なのはどんなとき?～



## 〈発行のねらい〉

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。

そこで、この度、皆様に上手に救急車を利用いただくため、「救急車を上手に使いましょう ～救急車 必要なのはどんなとき?～」を作成しました。この中には、

救急車を呼んだら用意しておくべきものなど「救急通報のポイント」、重大な病気やけがの可能性のある「ためらわず救急車を呼んでほしい症状」、実際に救急車を呼ぶ場合の「救急車の呼び方」などを載せていますので、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などに、活用していただければと思います。

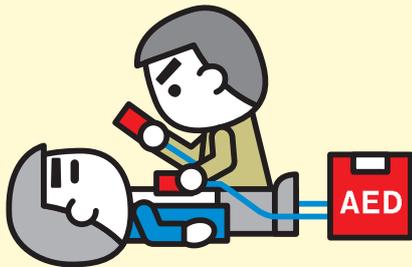
救急車や救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していきたいと思います。

# 救急通報のポイント

救急車を呼ぶときの番号は「**119番**」です。

救える命を救うためには、**応急手当**が重要です。  
 応急手当が必要な場合は、消防本部から電話で指示されます。

救急車が到着するまではどうしても時間がかかります。  
 いざというときに、大切な方を救うためにも、  
**正しい応急手当**を身につけておきましょう。



お近くの消防署では**応急手当の講習**を行っています。  
 消防署の電話番号は、市役所等のホームページなどで調べるができます。

応急手当をしている人以外にも  
 人手がある場合は、  
**救急車の来そうなところまで案内に出ると**  
 到着が早くなります。



救急車を呼んだら、**こんな物を用意しておく**と便利です。

- 保険証や診察券
- お金
- 靴
- 普段飲んでいる薬 (おくすり手帳)



- (乳幼児の場合)
- 母子健康手帳
  - 紙おむつ
  - ほ乳瓶
  - タオル



救急車が来たら、**こんなことを伝えて下さい**。

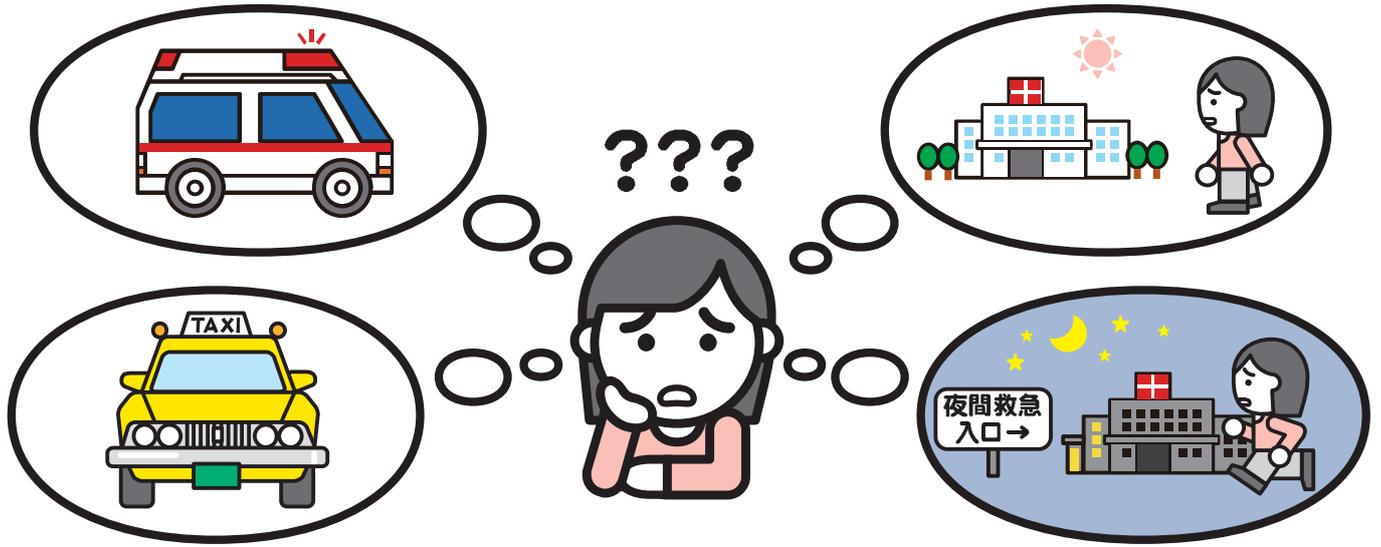
- 事故や具合が悪くなった状況
- 救急隊が到着するまでの変化
- 行った応急手当の内容
- 具合の悪い方の情報  
 (持病、かかりつけの病院やクリニック、  
 普段飲んでいる薬、医師の指示等)



\* 持病、かかりつけの病院やクリニックなどは、日頃からメモにまとめておくとう便利です。

## 判断に迷ったときは、お近くの救急相談窓口

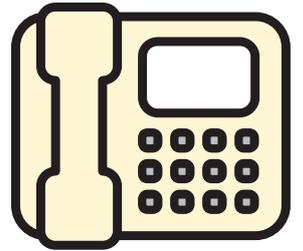
急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだほうがいいのか、自分で病院を受診すればいいのか、どこの病院に行けばいいのか迷うことがあります。



そのような時には  
お住まいの都道府県や市町村に救急相談窓口がありますのでご相談ください。

例えば、次のような電話相談窓口があります。(平成23年3月現在)

- ☎ **#7119** 救急相談センター (東京都)  
救急安心センター (大阪府、奈良県)
- ☎ **#8000** 小児救急医療電話相談事業  
※各都道府県に窓口があります。



 MEMO

# ためらわず救急車を呼んでほしい症状：大人

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！  
重大な病気やけがの可能性がります。

## 顔

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかける
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い



## 頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないくらい急にふらつく

## 胸や背中

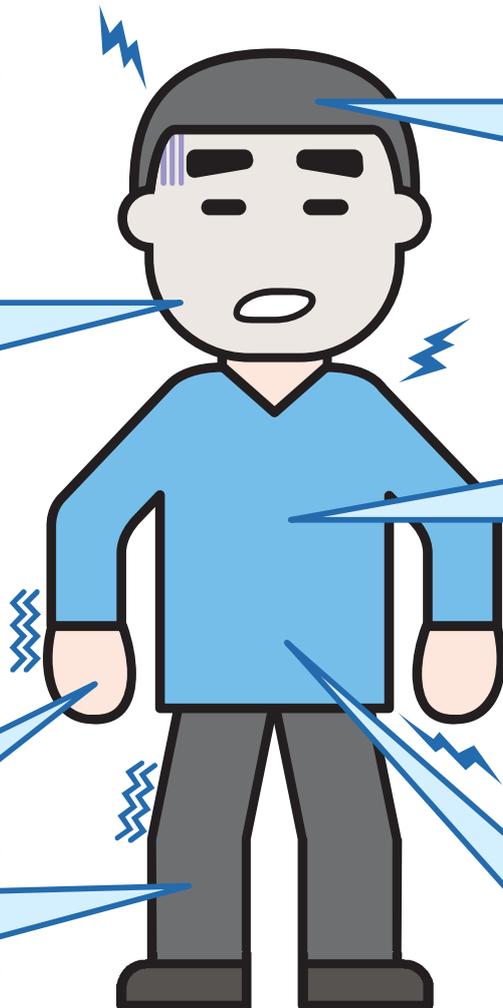
- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2~3分続く
- 痛む場所が移動する

## 手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

## 腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある



## 意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている



## けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

## けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど



## 吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

## 飲み込み

- 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない



## 事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

# ためらわず救急車を呼んでほしい症状：小児(15歳未満)

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください!  
重大な病気やけがの可能性あります。

## 顔

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

## 頭

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない、けいれんがある

## 胸

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

## おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

## 手足

- 手足が硬直している



## 意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

## けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

## 飲み込み

- 変なものを飲み込んで、意識がない

## じんましん

- 虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった



## やけど

- 痛みのひどいやけど
- 広範囲のやけど

## 事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

## 生まれて3カ月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい



◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

# 救急医療の受診について

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」や「日中は用事がある」、「明日は仕事」などの理由で、救急外来を、夜間や休日に受診する人もいます。

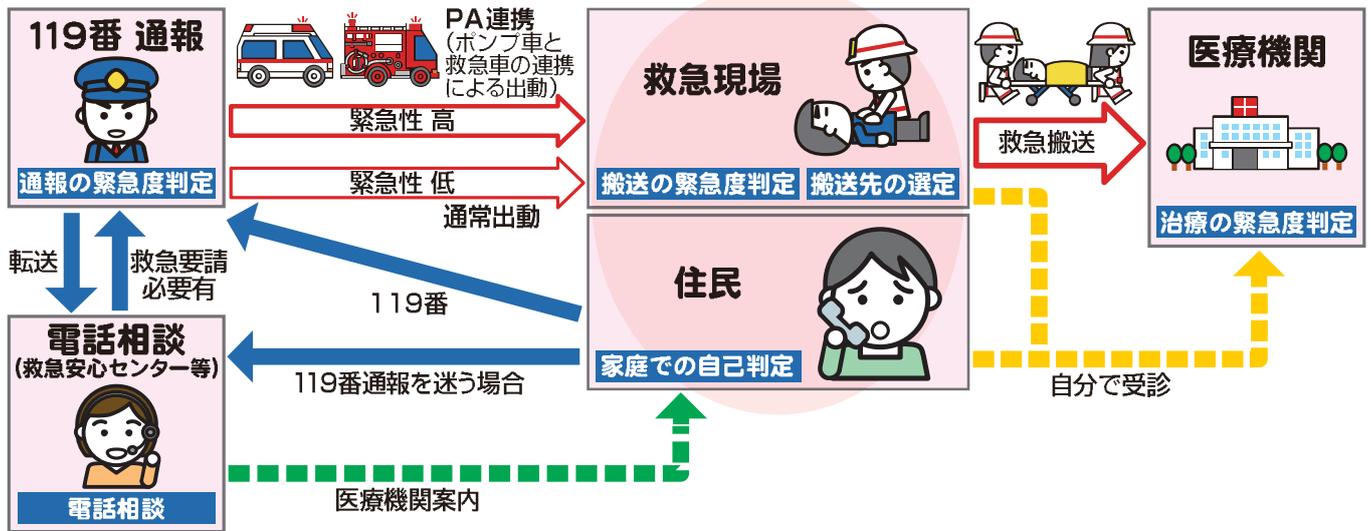
**救急車や救急医療は限りある資源です。**

**いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみませんか。**

こうしたケースで救急車が呼ばれました ~本当に必要か考えてみましょう~

- ・蚊に刺されてかゆい
- ・海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする
- ・紙で指先を切った。血は止まっているが・・・
- ・病院でもらった薬がなくなった
- ・今日入院予定日だから、病院に行きたい
- ・ヘルパーを呼んだが来てくれなかったので、代わりに救急車を呼んだ
- ・病院で長く待つのが面倒なので、救急車を呼んだ

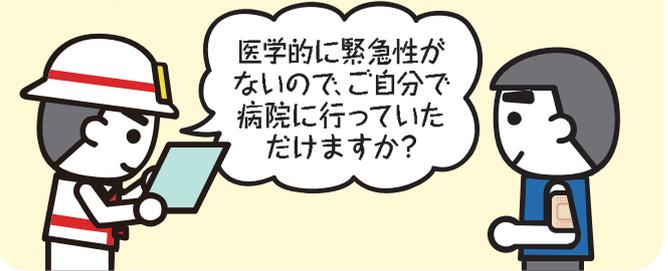
**救える命を確実に救うためには、緊急度に応じた救急医療を提供することが重要です。**



電話相談の例



搬送の緊急度判定の例



通報の緊急度判定の例



治療の緊急度判定の例



消防庁では、こうした**緊急度の判定基準**を共通のものとして、救急医療を効果的に提供する体制を作っていきたいと考えています。